



公益
社団法人 京都府放射線技師会

京放技ニュース

8 / 2013
(通算 639 号)

発行：(公社)京都府放射線技師会 TEL&FAX 075-802-0082 E-mail:kyohogi@mbox.kyoto-inet.or.jp
ホームページアドレス <http://www.kyohogi.jp/>
〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町 88-1 二条プラザ
振込郵便口座 0100-3-11019 ゆうちょ銀行 店名 一〇九 店番 109 当座 口座番号 0011019

明日への一步

(公社)京都府放射線技師会副会長 北村 真

暦の上では秋も間近ですが、巷では暑さの盛りです。

平素は(公社)日本診療放射線技師会、および、(公社)京都府放射線技師会の会務にご理解を賜り感謝申し上げます。

さてその会務の中の一つに、チーム医療の推進があるのは既にご承知の事と存じます。チーム医療については診療放射線技師法にも明記されており、その活動は諸兄のご存知の通りの実績があります。昨今では各地区で開催されている「静脈注射(針刺しを除く)講習会」もその一貫といっても良いと考えられます。

チーム医療は患者さんを中心とした社会型の医療体系といっても良いでしょう。

他職種との小さな協働作業が、知識、技術の向上と共に時代の変遷に伴い、行政指導という確立された地位を築き始めています。これらの活動は、国民中心の保健と健康維持が目的である事は論を待たないものです。そういった背景の中、一枚の報告書が目にとまりました。

第一回のチーム医療推進会議が平成 22 年に厚生労働省の会議室で開催され、この会議には日放技からも委員が参加した事もあり、本会の事業にも飛躍的な進歩がありました。この会議の議案の検討方針としては、「具体的な方策の実現に向けた詳細な検討を行うための WG を設置。会議は、各 WG の報告を踏まえ、検討を実施。」とされています。平成 25 年 6 月に第 11 回チーム医療推進方策検討ワーキンググループ会議が開催され、議題の資料の中の一つに「特定行為に係る看護師の研修制度について」がありその中に「特定行為に係る看護師の研修制度(案)に対する日本医師会の意見」

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000035flh-att/2r98520000035fpd.pdf>) があります。この内容は正論である事は間違いないのですが、私は幾分か違和感を覚えました。主語を看護師から診療放射線技師に置き換えても同じ文章で解決が図られるような気がします。機器や技術の進歩と法律が一致しないがために起こっているグレーゾーンの解消は急がれる懸案の一つであるが、その解決が進まない理由の一端を見つけたような思いが走りました。日本診療放射線技師会では、広く国民の益となるような広告できる認定制度を目指して邁進しているところですが、あらゆる困難が待ち受けている事もしっかり認識しなければなりません。さらに国民中心の医療社会、チーム医療の根本を考え見直す機会が与えられたといっても良いでしょう。

そこで、私たち一人一人の研鑽はいうまでもなく不可欠なことです、それだけではなかなか進めない道もあります。その時、力となるのは国民の皆様の後押しです。それには求められ、評価される職とならなければなりません。今までは小意にこだわり過ぎた感があったことは否めません。これからは大意にも目を向け本組織が国民の皆様役に役立つ事を考えなければならぬ時期です。それがひいては診療放射線技師の更なる飛躍につながることに信じています。

今、私達には更なる結束と進歩が求められています。

大きな改革を成すにはまず、小さなうねりが必要です。それには個人の明確な意志がなければなりません。皆さんの力が今後の国民の保健と健康の維持に関わりを持っている事を考えてください。

第 550 回研修会報告

学術委員会 原口 隆志

平成 25 年 6 月 22 日に京都テルサで、全地区委員会に引き続き第 550 回研修会を開催しました。

「高精度 X 線装置による電離箱式サーベイメータの校正」

京都医療科学大学 4 回生 朝野 聡明、大北 哲也、楠 聡介

京都府内の技師会会員が所属している施設に電離箱式サーベイメータの校正時期等をアンケート調査した。その結果、3 年以内に校正を行っている施設は 47% と約半数しかなかった。

国が産業技術研究所（産総研）で保有する標準線量計で校正された特定二次標準器により校正された線量計を基準線量計とする。このように元をたどれば国家標準とつながっていることをトレーサビリティという。

本大学には産総研と同性能の X 線発生装置 TAITAN225S (GE 社製) を保有しており、これを使用して臨床の現場で使用されている電離箱式サーベイメータの校正を行い、その特徴も調べた。

大学の X 線発生装置と基準線量計は管電流と管電圧を変化させた 2 種類の条件で複数回計測しても変動係数は最大 0.14% であり、JIS 規格の 5% 以下の条件を満たしていた。また、計測距離を変化させてもエネルギーに差は見られなかった。

以上の結果を基に京都府内の放射線技師会会員所属施設より集めた 63 台の電離箱式サーベイメータの校正を行った。さらに、サーベイメータの製造会社ごとの特徴や違いを調べた。

それぞれの線量計の校正係数の分布より、Aloka 社の線量計は校正係数 1.0 近辺に多くの分布を持っているが、他の会社毎ではばらつきがみられた。さらに基準線量に近似した値を示すものが少ないことがわかった。同じ製造会社、同じ形式のサーベイメータを用いても製造番号ごとで異なる校正係数を示すので、サーベイメータごとの校正が定期的に必要であると考えられる。

「富士フィルムデジタルマンモグラフィシステム AMULET について」

富士フィルムメディカル (株) 大島 裕二氏

平成 22 年の時点でマンモ撮影は CR が 68%、FPD が 15%、アナログが 17% と CR の普及が突出している。デジタル装置では石灰化の見え方が装置の性能により異なり、画像処理によっても同じである。富士フィルムは CR 時代よりさまざまな画像処理を搭載し、最新の W 階調は乳腺と脂肪領域のバランスを最適化した画像処理である。DR 用として新たに「ダイナミックビジュアル処理」、「乳腺コントラスト調整処理」、「EDR ADVANCE」を加え、モニター診断に最適なソフトコピー画像処理を行っています。「モニター診断向けに収録データをフルレンジで出力している」、「モニター表示に最適な新階調カーブを開発」、「乳腺濃度が大胸筋に影響されることなく、適切な濃度を表現する」、「様々な乳房構成の乳腺コントラストを最適化し、高濃度乳腺画像を高いコントラストで観察できる」といったモニター診断に最適な画像処理技術を富士フィルムは開発しています。

AMULET は世界最小の 50 μ m サンプリングを可能にした DR マンモグラフィ装置です。直接変換方式のアモルファスセレン (a-Se) 層の下に a-Se を使用した新たなスイッチング方式を開発しました。これにより同じ 50 μ m 解像度でも CR よりも FPD では明らかに石灰化が見やすくなっています。撮像時の受診者環境も考慮されており、「受診者に力が入りすぎない CC 撮影時のグリップハンドル位置」、「アームレスト機能が MLO ポジションを適切にサポート」、「撮影部角を先細り形状にして脇部の痛みを軽減」、「胸壁・腋窩パットにより痛み・冷たさ軽減」という女性に優しいエルゴノミクスデザインを採用し、装置の模様も 5 種類から選べるようになっている。

日常管理の QC ツールもシステムの一部として販売されており、1shot で IEC、EUREF 規格に準じた定量的な画質性能計算・結果の表示と管理が可能です。

マンモグラフィ CAD にも対応しており、腫瘍・石灰化候補の検出が可能です。また、3D マンモグラフィやトモシンセシスにも対応しています。

以上、医療科学大学と技師会との合同での事業の報告・DR マンモグラフィ装置の最新情報の報告となりました。

今後も会員の皆様に役立つような研修会を企画していきますので多くの参加をお待ちしています。

平成 25 年度全地区委員会報告

6 月 22 日 (土) に、ホテルセントノーム京都平安の間にて平成 25 年度全地区委員会が開催された。参加者は三役及び理事が 17 名、名誉会員 1 名、監事 1 名、地区委員 13 名、組織調査委員 4 名の計 36 名でした。松元組織委員の司会により開会した。

最初に久保田組織理事ならびに轟会長より挨拶があった。次に北村副会長より日本放射線技師会総会の報告があった。主な内容としては下記の通りであった。(抜粋)

- ・ 静脈注射 (針刺しを除く)、注腸講習会の進捗状況
- ・ 読影補助の業務拡大 (レポートなどの実績など)

今年度中に静脈注射 (針刺しを除く) ならびに注腸の講習会を予定しているが、静脈注射 (針刺しを除く) の実習部分の検討が遅れているとの事であった。総会報告において轟会長より補足説明がなされた。内容は 2 点で、憲法 26 条の件、重粒子治療についてであった。前者は『医師の指示の元』の項目を外す、具体的には検診業務の医師の立ち合いを不要にする事や明らかな左右間違い等は医師の指示を訂正する事について述べられた。後者の重粒子治療はあくまでも診療放射線技師が中心となって業務を遂行する。医学物理士を国家資格に移行する予定は現在のところ無いとの事であった。さらに北村副会長から近畿学術大会についての説明があった。平成 26 年 2 月 16 日に京都府立医科大学附属病院にて開催、特別演題 2 題程度、教育講演 3 題程度、シンポジウム、一般演題、ランチオンセミナーなどを予定している。

次に事前アンケートを基にディスカッションが行われた。(内容抜粋)

- ・ 技師会研修会に求めるもの (内容・時間・場所など)
- ・ 技師会に求めるもの (広告できる専門技師・技師の業務拡大・相談窓口)
- ・ 会員減少問題について (他団体との会費比較含む)
- ・ 技師会入会のメリット
- ・ 全地区委員会として取り扱ってほしい議題
- ・ 地区委員が思う地区の問題点

事前アンケート集約はスライドにて議事進行を行った。技師会に求める事として相談窓口を設けてほしいという意見があり、久保田組織理事より委員会が提案するメーリングについて簡単に説明があった。会場からホームページ上で誰もが閲覧・回答できるものにした方がいいのではないかという意見もあった。会員減少の一番の原因となっている会費の件は武部財務理事より会費運営の現状について説明があった。会員が増えないと会費を下げることはかなり困難であることを理解し、会員に広報する必要があることを痛感した。全国大会の進捗状況が知りたいとの意見には轟会長より回答を頂いた。説明を聞いて今回はどうしても受ける使命があり、何としても成功させなければならないという印象を受けた。地区の問題点として連絡網の取り扱いについての質問は、丸山西地区理事から西地区のメーリングを使用した連絡方法について説明を頂いた。時間の都合上十分な討議が行えたとはいえないが、技師会の現状や地区の問題点など内容の濃いものになったと思う。質疑時間がかなり短かったので次年度も同様の企画をしてほしいと思いました。

全地区委員会は、地区委員と執行部が直接意見や要望を話す機会を持ち、技師会を知ることのできる貴重な会合です。会員の皆様は必ず地区に所属しており、直接話す機会が多いのが地区委員です。今後さらに連絡などの関係を密にしていきたいと考えていますので、会員の皆様には技師会の行事には積極的に参加していただけますようお願い申し上げます。

そして意見や要望があれば地区委員や地区理事またはダイレクトでも結構ですので執行部に知らせてください。来年以降も全地区委員会を継続することで、技師会活動の活性化につながることを切に願っています。

(文責：熊井)

フレッシュ診療放射線技師の集い報告

厚生委員会 中川 稔章

6月22日(土) ホテルセントノーム京都にて19時より「フレッシュ診療放射線技師の集い」を開催し、フレッシュ技師28名(2年目非会員1名含む)、一般会員40名、学生3名、計71名の参加者が集まりました。

轟会長の挨拶の後、小倉名誉会員の乾杯の音頭により楽しく始めました。

毎年恒例となりましたフレッシュ技師の紹介と、ベテラン技師のユーモアあふれるスピーチで楽しく過ごせました。

フレッシュ技師の方々は、他の施設とまだ交流が少なく、熱心にベテラン技師の話に耳を傾け、フレッシュ技師同士も情報交換を行なえたのではないかと思います。

この会に参加して技師同士の交流がいかに大切かを少しでもわかっていただけたならと期待し、午後9時、河本副会長の閉会のあいさつと、京都医療科学大学の西谷教授のあいさつで終了しました。

来年も会員の皆様からのフレッシュ技師の紹介をよろしくお願いします。



各施設から新卒者の紹介が行われた

第48回京都病院学会報告

広報・渉外委員会 新井 喬

6月9日(日)に池坊短期大学にて「第48回京都病院学会」が開催されました。

当日は絶好の学会日和とはなりませんでした。多数の方に来場していただきありがとうございました。前回より演題数が減少したこともあり、今回の総参加者数は2,056名(前回36名減)になりました。

学会のテーマである災害についての講演は、一般参加者の関心も高く、アンケートも良い評価が多くありました。また、スポーツと体罰をテーマとした特別講演では、スポーツを多方面から考えることができ、余り目にしない光景を思い浮かべることができ、日頃耳にしない話も聴くことができ、参加者の評価も高かったです。

放射線部門は午後からの演題発表でしたが、会場は立ち見となるほどの盛況で、新たなトラブルは多少ありましたが演題発表は無事に進行了しました。

今回は、場所を池坊短期大学にかえての3回目の学会となり、全体的には前回よりもよりスムーズな運営ができたと思います。

最後に、演者、座長、準備委員のみなさま方には御礼申しあげます。



放射線技師部門では講習者の席は前列まで埋まっていた

第 2 回理事会報告

平成 25 年 7 月 6 日

議長に松元理事、書記に城下理事を選任し午後 4 時より議事に入った。

I. 経過報告及び計画に関する件

1) 経過報告及び計画 (議会長)

- (経過報告)
- 6月9日 第48回京都病院学会 (池坊短期大学)
 - 6月19日 近畿地域学術大会実行委員会 (京放技事務所)
 - 6月22日 全地区委員会およびフレッシュ診療放射線技師の集い (ホテルセントノーム京都)
 - 6月24日 総務委員会 (京放技事務所)
 - 6月28日 平成24年度事業報告提出 (京都府)
 - 6月28日 定款変更届申請 (法務局)
 - 7月2日 定款変更申請終了
 - 7月6日 平成25年度京放技第3回理事会 (京放技事務所)
 - (計画)
 - 7月10日 近畿地域学術大会実行委員会 (京放技事務所)
 - 7月26日 第551回研修会 (京都アスニー)
 - 7月27~28日 日本診療放射線技師会第2回理事会 (神奈川県湯河原)
 - 8月3日 平成25年度第1回常務理事会 (京放技会議室)
 - 9月7日 平成25年度近畿地域会長・副会長会議 (大放技事務所)
 - 9月7日 線量計校正研修 (京都医療科学大学)
 - 9月8日 静脈注射(針刺しを除く)講習会 (福知山市民病院)
 - 9月14日 平成25年度京放技第4回理事会 (京放技会議室)
 - 9月20~22日 日本診療放射線技師学術大会 (島根県松江市)
 - 9月21日 全国会長会議 (島根県松江市)
 - 9月28日 日本診療放射線技師会第3回理事会 (鈴鹿)
 - 10月12日 平成25年度京放技第5回理事会 (京放技会議室)
 - 10月19 or 6日 中間監査 (京放技事務所)
 - 10月26日 公益法人取得、法人設立30周年記念式典 (レビノ京都堀川)
 - 10月20日 くらしと健康展開催予定 (京都府医師会館)
 - 11月9日 平成25年度京放技第6回理事会 (京放技会議室)
 - 11月17日 静脈注射抜針講習会(第2回)(京都第二赤十字病院)(備考)
 - 全国女性サミット(8月)、選挙管理委員会(9月中旬に開催)、総務委員会(7月)

2) 委員会報告及び計画

【庶務】血谷理事

- 6月30日現在会員数487名(先月+7)
- 内訳:名誉会員5名、正会員454名、賛助会員28名(社)
- 新入会7名、転入会1名、賛助退会1社(平成25年度新入会累計7名)

・委員会報告

・対外文書98件、発刊文書4件(6月1日~6月30日)

・新入会5名の承認

【財務】武部理事(渡里委員代読)

・会費納入状況

6月末日現在平成25年度会費納入状況193名(42.1%)

7月5日現在平成24年度会費未納者14名

・平成25年6月会計収支報告書

- 7月1日財務委員会開催 (京放技事務所)
- 平成25年度火災保険は継続契約済み
- 日放技の会費請求の間違いで、4名分の平成24年度分京放技会費が請求漏れしていたので、追加で日放技から請求される予定である

【学術】原口理事(北村副会長代読)

6月22日 第550回研修会開催 (セントノーム京都)

参加:67名(内フレッシュ9名)

6月27日 臨床検査学科講義(丸山担当)

7月9日 臨床検査学科講義予定(京都保健衛生専門学校)

7月10日 近畿地域学術大会プログラム委員会開催予定

7月26日 第551回研修会予定 (京放技事務所)

9月7日 近畿地域教育委員会 (大阪府放射線技師会事務所)

9月8日 静脈注射(針刺しを除く)講習会北部会場 (福知山市民病院)

【編集】中島理事

6月8、9日 京都病院学会出務 (池坊短期大学)

6月14日 7月号ニュース編集作業 (田辺中央病院)

6月21日 7月号ニュース校正作業 (田辺中央病院)

7月19日 8月号ニュース編集作業予定 (田辺中央病院)

7月26日 8月号ニュース校正作業予定 (田辺中央病院)

【広報・渉外】新井理事

6月8、9日 「第48回京都病院学会」開催 (池坊短期大学)

6月12日 「第40回くらしと健康展第1回実行委員会」開催 (京都府医師会館)

7月2日 「第48回京都病院学会」第6回実行委員会開催 (京都私立病院協会会議室)

7月17日 「第40回くらしと健康展」第2回実行委員会開催予定 (京都府医師会館)

10月19、20日 「第40回くらしと健康展」の出務者を募集

【組織調査】久保田理事(松元委員代読)

5月21日 組織調査委員会

6月13日 組織調査委員会

6月22日 全地区委員会 出席36名(地区委員13名)
(セントノーム京都)

11月頃 第3回学遊会開催予定

【厚生】中川理事

6月22日 フレッシュ診療放射線技師の集い開催
(ホテルセントノーム京都)

一般会員34名、3~5年目会員3名、2年目会員3名、フレッシュ技師28名(2年目非会員1名含む)、学生3名、総数71名

1月19日 近畿地域放射線技師囲碁大会開催予定
(大阪府医師協同組合)

【情報】中田理事(庶務理事代読)

7月3日 ホームページ更新

【管理士】山根理事

6月22日 研修会で線量計校正研究の発表(京都医療科学大学学生にて)
(セントノーム京都)

7月3日 南丹市総合防災訓練打ち合わせ (南丹病院)

7月11日 南丹市総合防災訓練会議参加予定 (南丹市役所)

8月31日 亀岡市防災訓練参加予定

9月7日 線量計校正実習予定 (京都医療科学大学)

10月6日 南丹市総合防災訓練参加予定(南丹市日吉町グラウンド)

11月10日 日放技機器管理分科会の研修会開催予定(島津製作所)

8月31日 亀岡市防災訓練参加を承認

【受賞者選考委員会】河本副会長

・知事表彰者のリストアップを行い、京都府に提出予定

II. 地区経過報告及び計画に関する件

【北地区】古谷理事

6月14日 全地区委員会への出席依頼を各地区委員に配信

6月22日 全地区委員会、フレッシュ技師の集いに参加
(セントノーム京都)

7月 委員会開催予定、日程調整中 (西陣病院)

【中地区】楡理事

6月8日 第48回京都病院学会準備参加 (池坊短期大学)

6月9日 第48回京都病院学会参加 (池坊短期大学)

6月14日 委員会開催(5名参加) (京放技事務所)

・研修会予定などの配信を決めたので、改めて、メールアドレスの登録をつくる

【東地区】平川理事(庶務理事代読)

6月22日 委員会開催 (セントノーム京都)

4月22日 全地区委員会、東地区委員会、フレッシュ診療放射線技師の各委員の出欠確認

4月30日 第2回通常総会委任状督促

5月22日 地区委員会アンケート案内

6月2日 地区委員会アンケート案内を催促

6月22日 全地区委員会、フレッシュ診療放射線技師の集い参加と、委員会開催

【西地区】丸山理事

6月13日 地区連絡配信

6月21日 全地区委員会参加(地区委員4名)
(セントノーム京都)

・フレッシュ診療放射線技師の集い(地区委員2名)
(セントノーム京都)

【南地区】渡里理事

5月31日 アンケートの返信

6月4日 アンケートの返信

6月14日 全地区委員会出席確認メール

6月22日 全地区委員会出席(2名参加) (セントノーム京都)

7~8月 委員会開催予定 (宇治徳洲会病院)

【両丹地区】山添理事

6月7日 両丹地区春季研修会開催 (福知山市民病院)

参加者21名(非会員1名)

9月8日 平成25年度両丹地区夏季研修会予定(福知山市民病院)

静脈注射(針刺しを除く)講習会北部会場

予定していた9月7日午後からの研修は中止とする

【西南部地区】松元理事

6月22日 全地区委員会(地区委員4名参加)
(セントノーム京都)

フレッシュ診療放射線技師の集い(15名参加)
(セントノーム京都)

9月中 委員会開催予定

III. その他

1) 全地区委員会・フレッシュ診療放射線技師の集い総括(議会長)

準備不足もあったが、今回は活発な活動ができたと思う。

2) 公益法人の事業手続きについて(議会長)

6月28日に京都府に対して報告手続きが完了した。今後は京都府の

監査があたりするが、引き続き、皆様のご協力をお願いします。

法務局への定款改定手続きが済み、登記簿が手に入った。それを京

都府へ提出する予定である。

3) 平成25年度近畿地域学術大会について(議会長)

8月末までに日程と準備を仕上げる予定。9月7日の近畿会長副会

長会議には素案を提出予定。

4) 9月8日に福知山市民病院にて行う静脈注射(針刺しを除く)講習

会の申し込みが、7月8日午前0時に日放技のホームページで開

始される。(議会長)

次回理事会は平成25年9月14日(土)午後4時より京放技会

議室にて開催予定

以上、各議案について採択し承認された。(文責 城下)

2013 年度 JSRT-JART 公開合同学術セミナーの御案内

このセミナーでは日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会が協働して、最近話題となっている課題をテーマに、双方の人材と特長を活かして有益な情報を会員ならびに市民に提供します。

テーマ 「医療被ばくを考える」

司会 JSRT 理事 土井 司 (大阪大学医学部附属病院)
JART 理事 児玉 直樹 (高崎健康福祉大学)

期 日：平成 25 年 8 月 31 日 (土) 13:30～16:30

場 所：京都府民総合交流プラザ 京都テルサ 第一会議室

京都市南区東九条下殿田町 70 番地 TEL：075-692-3400

～ プログラム ～

基調講演「福島第一原発事故から医療被ばくを考える」(40分)

京都医療科学大学 大野 和子

シンポジウム「診療放射線技師の取り組み」(各 15 分 × 6)

- | | | |
|--------------------|-----------------|-------|
| 1) 医療被ばくガイドラインの考え方 | 日本診療放射線技師会 | 諸澄 邦彦 |
| 2) X線 CT 検査による被ばく | 国立がんセンター東病院 | 村松 禎久 |
| 3) 血管撮影による被ばく | 山梨大学医学部附属病院 | 坂本 肇 |
| 4) 核医学検査による被ばく | 茨城県立医療大学 | 對間 博之 |
| 5) 医療被ばく低減施設の取り組み | (秋田県) 市立横手病院 | 藤原 理吉 |
| 6) 医療被ばくに対する考え方 | 大阪府立急性期総合医療センター | 船橋 正夫 |

求人のお知らせ

京都市左京区の医院でアルバイトの募集があります。詳しくは京放技事務所までご連絡ください。

▶ 8 月以降の京放技活動

9 月 7 日 (土)	線量計校正研修会 (管理士会)	京都医療科学大学
9 月 8 日 (日)	静脈注射 (針刺しを除く) 講習会	福知山市民病院
10 月 20 日 (日)	くらしと健康展	京都府医師会館
10 月 26 日 (土)	公益法人取得、法人設立 30 周年記念式典	ルビノ京都堀川
11 月 17 日 (日)	静脈注射 (針刺しを除く) 講習会	京都第二赤十字病院

会 員 異 動

【新入会】

- 石元 佑弥 京都第一赤十字病院 (東 5)
 中山 美紀 京都第一赤十字病院 (東 5)
 山本 翼 国立病院機構京都医療センター (南 2)
 辻 靖史 宇治徳洲会病院 (南 3)

【勤務先変更】

- 菊川 晴香 洛和会音羽病院 (東 3) ⇒ 洛和会丸太町病院 (中 2)